

反対だけど近い？ 似ているけれど違う？ ——反義と類義

日本語でも英語でも、それぞれの語は単独で孤立して存在しているのではなく、他の語と種々の関係を持ちながら語彙の中に位置づけられています。たとえば日本語の「うれしい」という語は「悲しい」という語と意味が反対ですが、「楽しい」という語とは意味が似ています。この「意味が反対である」(＝反義 (antonymy))とか「意味が似ている」(＝類義 (synonymy))とかいうのは語と語の間に成立する意味関係 (semantic relations) の例です。語の意味関係には、反義・類義のほか包摂 (hyponymy)・同形異義／同音異義 (homonymy) などいろいろな種類があり、それらは全体として言語の語彙の構造を形作っています。ここでは、意味関係の代表として反義と類義について考えてみます。

ある語と反義の関係にある語は反義語 (antonyms) と呼ばれますが、反義語というと、いかにも意味的に遠い語という感じがするかもしれません。しかし実際はその逆で、二つの語が反義語の関係にある場合、それらの語は共通の意味的基盤——意味上の共通項——を有しており、両者は同じ土俵に置かれた意味的に密接な関係を持ったものと言えます。次の各例を参照：

- (1) 姉／妹——(共通項) 女のきょうだい 偶数／奇数——(共通項) 整数
(2) 暑い／寒い——(共通項) 気候 晴／雨——(共通項) 天気

反義語はいろいろなタイプに分類することができます。その一つの分類として、関係する二語が明確な境界線を持ち相互排他的であるものと、そのような性質を持たないものに分けることができます。前者は非段階的反義語 (non-gradable antonyms)、後者は段階的反義語 (gradable antonyms) と呼ばれます。次例を参照 ((3)は非段階的反義語のペア、(4)は段階的反義語のペア)：

- (3) alive／dead, open／shut, true／false, positive (肯定の)／negative (否定の)
(4) long／short, large／small, good／bad, tall／short, hot／cold, old／young

この(3)と(4)は文法的にも違いがあり、前者は程度表現 (very による修飾など) や比較表現 (同等比較・比較級・最上級) が一般に不可能なのに対して、後者は一般にそれが可能です。次例参照：

- (5) ??This door is *very* open／shut.
(6) ??The man is *more* dead／alive *than* the woman. (cf. Yule 2006: 105)
(7) Singapore is about *as large as* Awaji Island.
(8) Britain is *smaller than* the United States. / David is *the best* student in our class.

反義語のタイプにはこの他に相互的反義語 (reciprocal antonyms) と呼ばれるものもあります。これは同一の事態を互いに逆の視点から見た捉え方を表し、それらを含む命題の間の相互の含意関係が成立するものです：

- (9) above／below (←A is above B ならば同時に B is below A でもある。すなわちこれらは、
同一の事態——事物の位置の関係——を互いに逆の視点から捉えたもの)
(10) longer／shorter (←A is longer than B ならば同時に B is shorter than A でもある。すなわちこれらは、
同一の事態——事物の長さの関係——を互いに逆の視点から捉えたもの)

反義語に対して、ある語と類義の関係にある語は類義語 (synonyms) と呼ばれます。類義語のことをときに「同義語」と呼んだりすることがありますが、厳密に言えばある語とまったく意味が同じ語 (句) というのは存在しません。たとえば father, mother という語はそれぞれ male parent, female parent と指し示している人は同じでも、これらはそれぞれ使われるコンテキストが異なり、前者の代わりに後者を用いることは通常はできません (たとえば my father は普通の表現ですが、my male parent という表現はそれと同じようには用いられません)。また、動詞の buy と purchase や begin と commence などの場合も、指し示している事柄は同じであっても用いられる文体 (style) が異なるため、自由に交換して用いることはできません。さらに、次のような場合は、斜体の語 (句) は指示対象の事物も同じというわけではなく、各ペアは交換可能ではありません：

- (11a) Mary's dog is really *intelligent*.
(11b) ?Mary's dog is really *wise*.
(12a) Sandy had only one *answer* correct on the test. (Yule 2006: 104)
(12b) *Sandy had only one *reply* correct on the test. (Yule 2006: 104)
(13a) The fire spread through the building very quickly, but fortunately everybody *was able to*／*managed to* escape. (Murphy 2004: 52)
(13b) *The fire spread through the building very quickly, but fortunately everybody *could* escape. (Murphy 2004: 52)

(11ab)において、intelligent は人にも動物にも用いられますが wise は通常は人 (または人の行為) について用いられ、動物について用いることは一般的ではありません。(12ab)の場合、answer は「(答案での) 解答」の意味で用いられますが reply は用いられません。(13ab)では、was able to および managed to はこのような「過去における一回限りの行為の成功」の場合に用いられますが、could はそのような場合は通常は用いられません。言語においては、形が違えば意味が違うのが原則であり、各々の語 (句) はたとえ意味的に似ていてもちゃんと存在意義を持っています。決して意味的独自性を喪失することはないのです。類義語・類義表現を正しく理解し運用できることは、英語コミュニケーション能力の重要な一部です。